

母島太陽光発電所設備設置事業 村民説明会での主な質問と回答

1. 日 時：令和7年7月16日（木）18:00～19:00

2. 参加者

説明側：東京都産業労働局、東京電力パワーグリッド株式会社、小笠原村環境課

村民出席者数：10名

3. 質問と回答

(1) 実証・運用について

- Q なぜ母島のような人口が400人程度しかいない地域で実証事業を行うのか。
- A 都内の島しょでは母島が本土から一番遠い島であり最も燃料供給コストもかかっている。さらに再生可能エネルギー100%を達成するには適した人口規模であり、かつ非常時の対応にも寄与できると考えた。
- Q 当初の構想では太陽光で発電したエネルギーで、年間の半分程度の母島の電力を賄うという話だったが、ABサイトのみでどれぐらいを想定しているのか。
- A ABサイトで年間時間の半分ぐらいを想定している。Cサイトが加わると7割程度まで再生可能エネルギーで供給できる見通しである。
- Q 現在は太陽光発電設備で発電した電気が島内に流れているのか。
- A 現状は太陽光発電設備からの電気は流していない。専門的な試験を実施している最中である。
- Q EMS（エネルギーマネジメントシステム）とはどのようなシステムなのか。
- A ディーゼル発電機、太陽光発電設備、蓄電池設備を統合的に制御するシステムである。
- Q この実証事業により東京電力の滞在する職員は増員するのか。
- A 増員は考えていない。
- Q 3年間の実証期間は何をするのか。
- A 制御システムの設定を最適にするためのデータを取得し、CO₂削減効果を最大化したい。実証期間中は太陽光発電設備を一時停止する場合もあるが、供用開始後は常時運用する。
- Q 停電した場合にディーゼル発電機が再稼働するまでのタイムラグはどれぐらいになるのか。
- A 停電から復旧までの時間は停電の原因次第で異なるため、明確には回答できない。ただし、導入したシステムでは保護装置の動作条件によって事故点を判別でき、自動復旧機能により、従来よりも早く復旧できる場合も多くなると想定している。
- Q システムトラブルがあると一網打尽に停電してしまうのではないのか。
- A EMSは二重化しており、システムトラブルにより直ちに停電することはない。EM

Sが完全に使用不可になった場合でも、従来のディーゼル発電機によって電力を復旧できる。

Q 実証期間にデータ収集をすると思うが、島民への情報提供は考えているか。

A 専門的なデータになるが、次回の島民説明会では示せるように考えたい。

(2) 設備の維持管理について

Q Bサイトの雑草が伸びておりパネルの影にならないか心配している。今後周辺の草刈りはどのような予定になっているのか。

A 今月は7月22日から草刈りに入る。今後も定期的に管理していくが、頻度は草木の伸び具合を見ながら考えていく。

Q 初期消火用に設置した水槽(2t)は水利がもたない。更なる防火水槽の設置をお願いしたい。

A 予算組が必要となるので中長期的に検討していきたい。

Q 他の地域で再エネ事業がうまく行かず放置されている状況を見てきた。母島での本事業はそうならないよう約束してもらいたい。

A 設備の耐用年数までは現状の設備で再生可能エネルギーの供給事業を継続し、設備の更新の段階で最適な再生可能エネルギーの導入を検討したい。ABサイトは東京都の土地であり返却する際は現状復帰しなければならないので、設備を放置することは考えられない。

(3) Cサイトについて

Q Cサイトについては今後どう考えていくのか。

A 現在はCサイトの実施判断は保留している。今後オガサワラカワラヒワの集団が安定してきた段階で改めて工事の実施可否について有識者に相談しながら検討していく。

Q オガサワラカワラヒワがどれぐらい増えたら工事を始めるのか。

A 専門家からもオガサワラカワラヒワが何羽程度増えたらという数字を出すことは難しいと言われている。

(4) 母島北部のノネコ対策について

Q アカガシラカラスバトの繁殖時期に合わせて対策期間を検討していると思うが、ハトの繁殖状況に合わせて対応していく考えはあるか。

A 現計画は有識者に相談しながら秋から春の対策期間を決めているが、今後の状況に応じてできる範囲で対策効果が上がる方法で実施したい。

(5) その他

Q 無電柱化したのはなぜか。

A 東京都が島しょ地域の無電柱化を推進している。本事業に合わせて東京都は無電柱化の計画を早めていただいたと聞いている。

Q 本日の資料は公開されるのか。

A 後日村役場のHPに議事概要とともに公開する。

以 上